

「地域の知の拠点再生プログラム」による地域再生計画
ひろしまの「知の拠点」再生プロジェクト（仮称）の提案

平成18年3月29日

「世界の知の拠点構想」を考える広島地域大学長有志懇談会

代表世話人	広島大学長	牟田泰三
	広島経済大学長	石田恒夫
	広島工業大学長	茂里一紘
	広島国際大学長	上里一郎
	広島修道大学長	兒玉正憲
	広島女学院大学長	今田寛

1. ひろしまの「知の拠点」再生プロジェクトの提案の背景

広島地域の大学長有志懇談会は、平成 17 年 2 月に「世界の知の拠点構想」を策定し、広島大学本部跡地を「世界の知の拠点」として活用すべきであると提案しました。その背景となる考え方は次のようなものでした。

広島はかつて「知の拠点」として機能していた

- ・広島には、広島高等師範学校が置かれ、学校教育を牽引する優秀な人材を数多く輩出してきた。
- ・広島地域には、広島大学をはじめ、公立、私立大学・短期大学が数多く立地し、高等教育の場としての環境が整っている。
- ・「教育県広島」と言われ、大学進学率はトップクラスであった。

時代の変化とともに、広島の「知の拠点」としての機能が低下してきた

- ・その後、広島地域の高等教育・研究開発機能の強化が進んだが、多くの大学等が広島市の外周部に分散的に立地したため、都心部に学生が集まる場や機会が少なく、他大学の学生や社会人との交流や芸術文化活動等が活発に行われているとは言えない状況となっている。
- ・同様に、各大学で広島地域の特性を活かした独自の研究等（平和研究等を含む）が展開されているが、核となる拠点に乏しいため、地域の特性や独自のテーマに関する学際的・総合的な研究等の活動が展開しにくい状況となっている。
- ・これらの条件が、広島地域（広島市）の都市的な魅力や拠点性の低下を招く要因の一つとなっていることは否めない。

広島の活性化を図っていくためには優秀な人材の育成と地域への定着が不可欠である

- ・不況の長いトンネルを抜け、製造業を中心に経済の回復基調が見られるようになった今、地域の経済を活性化し、中四国地域の拠点都市としての強化、都市の魅力の回復を図っていくためには、その中核を担う優秀な人材を輩出し、地域に定着させていくことが喫緊の課題である。そのためには、地域の人材育成力を高めるとともに、若者が定着していく文化的環境、都市的な魅力を醸成していく必要がある。

「世界の知の拠点構想」の提案を踏まえて、六大学長有志懇談会では、構想の実現に向けて検討を進めてきました。その結果、内閣府が推進する地域再生計画の「地域の知の拠点再生プログラム」を活用した「知の拠点」づくりが効果的であると判断し、関係機関の助言や民間事業者等の協力を得ながら事業化の検討を進めるとともに、文部科学省の施策である「地域再生人材創出拠点」の形成に向けて具体的な準備を進めています。また、構想具体化の体制を整えるため、広島地域の大学等に呼びかけて大学コンソーシアムの設立準備を進めています。

また、財政的な制約条件が厳しい中でプロジェクトを実現するため、民間の参画する官民共同プロジェクトとして実施することが望ましいと判断し、「知の拠点構想」に賛同する民間事業者の協力を得て、民間資金の活用による実現性の高い事業化のスキームの検討を進めてきました。

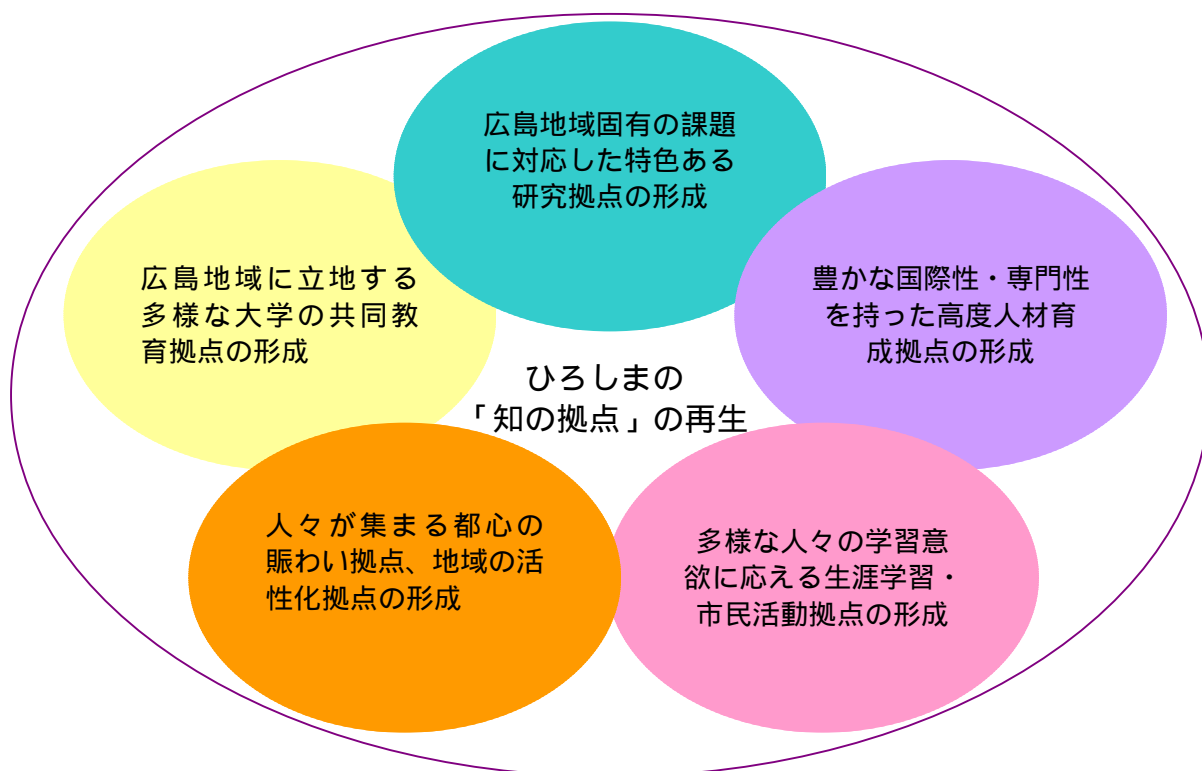
本案は、その検討結果を、『ひろしまの「知の拠点」再生プロジェクト』として提案するものです。

2. 提案内容

2.1 計画の目標

『ひろしまの「知の拠点」の再生』を実現するため、次のような目標を掲げました。

広島地域固有の課題に対応した高度な研究や課題解決のための特色ある研究拠点の形成
豊かな国際性・専門性を持った人材を育成する高度人材育成拠点の形成
広島地域の大学生の多様な教育と交流の機会の提供と、学生の集中による都市の活性化を図る共同教育拠点の形成
広島地域の人々の多様な学習や社会的活動の欲求に応える生涯学習・市民活動拠点の形成
恵まれた立地条件を活かし、多くの人々が訪れたいくなる都心の賑わい拠点、地域の活性化拠点の形成



2.2 目標を達成するために行う事業の計画

上記の目標を達成するため、広島大学本部跡地において行う事業について検討しました。当地区の事業化にあたっては、これまでの経緯から以下のような条件を基本としました。

公的主体（広島県または広島市）が広島大学本部跡地の取得、もしくは自らが主体となった施設の整備を行うことを前提としない事業の組み立てを行う

大学コンソーシアムは、対象地区における人材育成機能を担うため必要な事業（カリキュラムの編成、知的資源の提供等）について協力して最大限の取り組みを行う

このため、大学コンソーシアムは、広島大学本部跡地を活用した「ひろしまの知の拠点の再生」の必要性を理解し、ともに構想の具体化を検討する民間事業者を募り、一体となって事業の可能性を検討しています。現時点で想定している事業の基本的なスキームは以下のとおりです。

広島大学本部跡地全体をひろしまの「知の拠点」にふさわしい場として一体的に整備することを基本とし、行政・大学コンソーシアム・民間事業者（企業グループ）が協力してプロジェクト計画を作成する。（この枠組みとして内閣府の推進する地域再生計画（地域の知の拠点再生プログラム）を活用する）

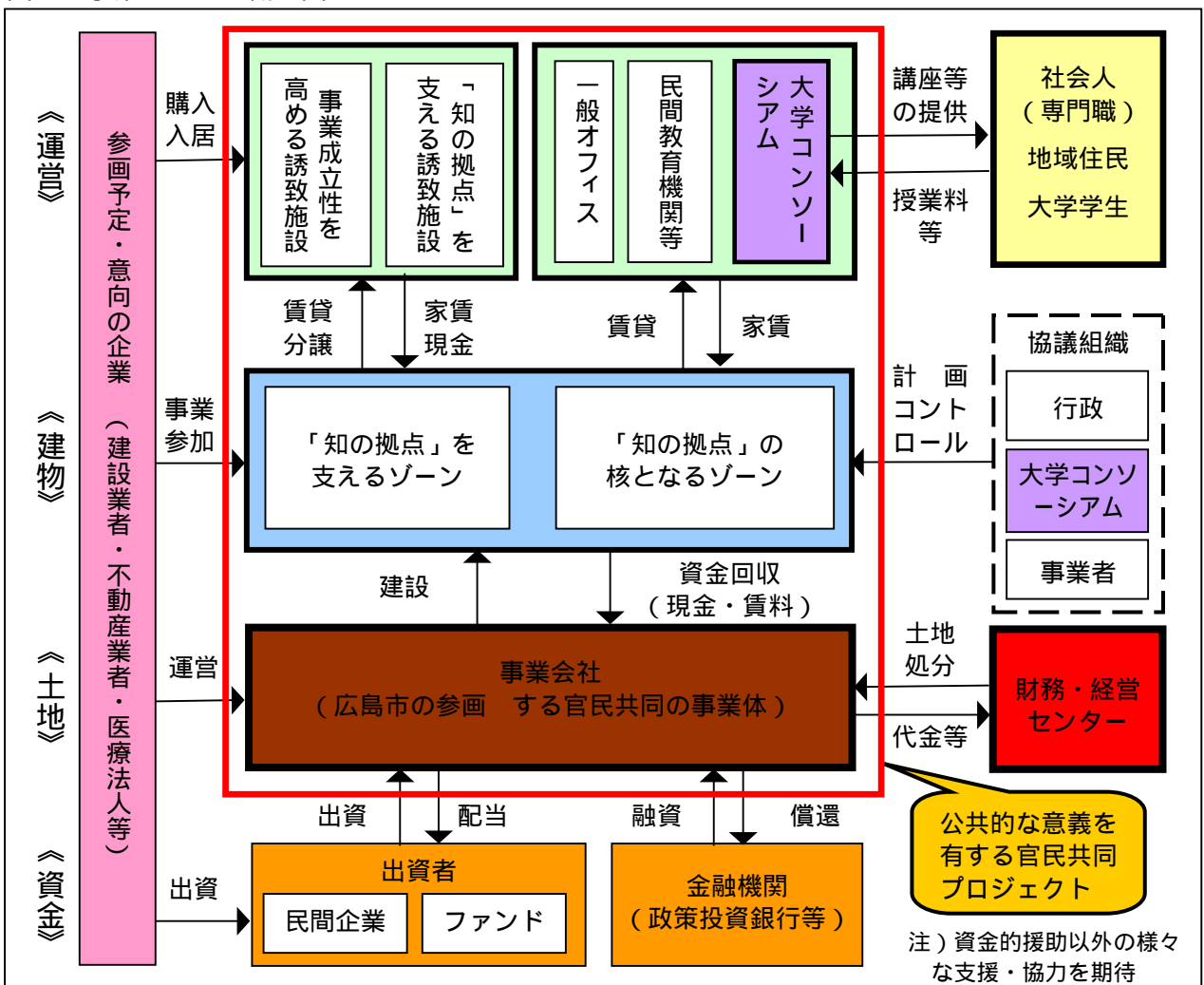
民間事業者（企業グループ）は、広島大学本部跡地の土地を取得するとともに、全体計画に基づいて「知の拠点」の核となる機能（人材育成施設等）の整備、及びこれらと一体となった「知の拠点」にふさわしい機能や事業の成立のために必要な機能を含む施設の整備・運営等において、中心となってプロジェクトを推進する。

大学コンソーシアムは、人材育成施設を活用（賃借等）して「知の拠点」にふさわしい高度な人材育成プログラムの開発・実施を行うとともに、生涯学習・地域活動等を行う多様な人材育成等の分野で地域貢献を行う。（この具体化のため、文部科学省の施策である「地域再生人材創出拠点の形成」に取り組む）

地方公共団体は、以上の事業スキームを実現するため、公的な計画としての位置付けを行うとともに、用地の円滑な取得や事業の実施について支援・協力を行う（注）。

注）一体的な計画に基づく建築物の規制・周辺環境への配慮等を前提に、敷地の処分や建築物の整備に関する制度的な支援（規制緩和等）、事業成立性を高める各種支援等を期待します。

図 事業スキーム概念図



上記の基本的なスキームに基づいて以下の事業を想定しています。

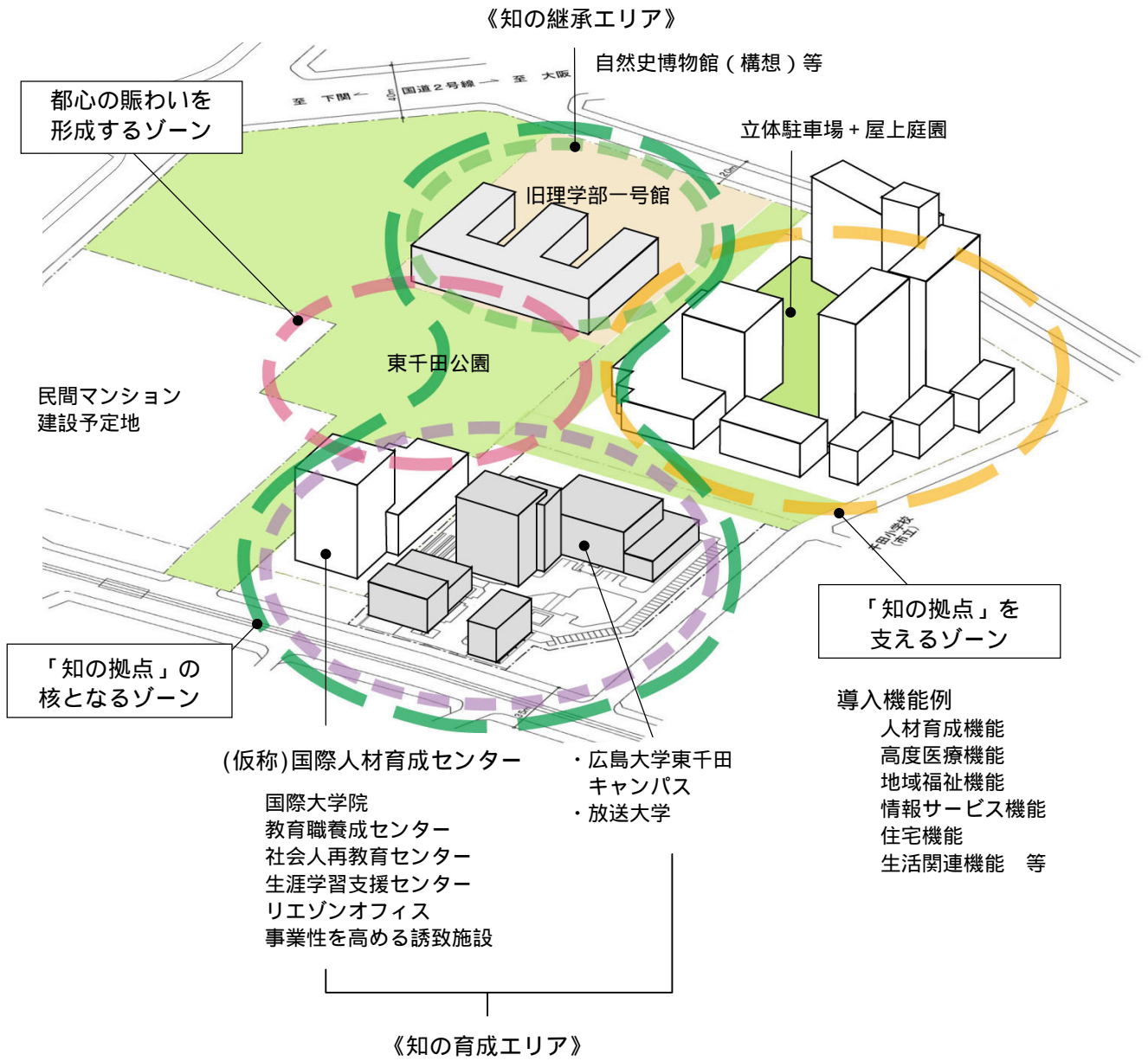
表 計画の概要

区分	整備の基本方針		導入機能	事業化の考え方
核となるゾーン 「知の拠点」	知の育成エリア	広島大学東千田キャンパスとも連携をとりつつ、「知の拠点」にふさわしい幅広い人材育成の拠点施設を整備する。	(仮称)国際人材育成センターの整備 ・地域の特色を生かした高度、専門的な研究機能 ・多様なニーズに対応した生涯学習支援機能	大学コンソーシアムが主体となってソフトの整備を推進(詳細は下表参照) 施設整備は民間事業者の活用を想定
	知の継承エリア	旧理学部一号館(被爆建物)を活用しつつ新たな時代に向けて「知の継承」を図る。	自然史博物館(構想)等	整備主体・手法等を検討する事業(別紙参照)
支えるゾーン 「知の拠点」を	「知の拠点」の核となるゾーンとの一体的な計画のもとに「知の拠点」にふさわしい都市機能の導入(事業成立性を高める民間施設の導入を含む)・一体性を持った都市空間の形成を進める。		人材育成機能 産学連携による産業育成機能 高度医療機能 地域福祉機能 情報サービス機能 賑わいを創出する住宅及び生活関連施設 など	「知の拠点」にふさわしい総合的な開発を行う民間事業者の参加を促し、行政・大学コンソーシアムが協力、支援しながら一体的な開発を行う。
を形成するゾーン 都心の賑わい	周辺地区の整備と連携をとりつつ、都市的にぎわいの創出や良好な都市空間形成を進める。		東千田公園と一体となった公共空間の整備・活用 「知の拠点」形成を促進するための基盤条件の整備	行政の支援を期待する事業

【別表】大学コンソーシアムが主体となつて行う事業

考え方	導入機能	備考
世界に通用する国際人材育成拠点の形成 世界的に知名度の高い「広島」の条件を活かして、国際性を身につけた世界に通用する人材を育成することを目的とした人材育成拠点を形成する。	国際大学院 ・平和科学専攻 ・国際ビジネス専攻 国際平和関係機関 ・国際平和研究センター ・国際機関等施設	既存研究所等の拡充等 UNITAR、JICA等のオフィス、ライシャワー大学ブランチなど
多様な人材の育成拠点の形成(コミュニティカレッジ) 広島地域固有の課題に対応した高度な研究、専門的な能力を持った人材育成から、地域の市民ニーズに対応した生涯学習活動まで、多様なニーズに対応できる、地域の知の拠点にふさわしい人材育成拠点を形成する。 併せて、大学等の教養教育等の場としても活用する。	社会人再教育センター ・教育職養成センター ・語学研修センター(日本語・外国語) ・地域防災研究センター 生涯学習支援センター ・生涯学習センター ・市民活動支援センター、NPO活動支援センター	教育職の再教育 語学専門学校の誘致も検討 地域再生人材創出拠点の形成に関する助成を想定(別紙申請書案参照)

図 東千田地区利用計画案



2.3 (仮称)国際人材育成センターの整備イメージ

上記の計画案のうち、大学コンソーシアムが中心となって企画・運営等に取り組む部分の整備イメージは以下のとおりです。

名 称	「(仮称)国際人材育成センター」		
整備場所	旧森戸道路隣接ゾーン 約0.6ヘクタール		
事業主体	官民共同事業体または民間事業者		
事業内容	人材育成機能等を含む複合施設		
導入機能	教育・研究機能 市民活動支援機能	<ul style="list-style-type: none"> ・国際大学院（平和学専攻） 附属国際平和科学研究所 ・国際大学院（国際ビジネス専攻） 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・社会人再教育センター ・教育職養成センター ・語学研修センター（語学専門学校の誘致等） ・地域防災研究センター ・生涯学習支援センター ・生涯学習センター ・市民活動支援センター、NPO活動支援センター等の拠点 ・アートセンター ・次世代人材育成センター ・次世代のリーダーシップ養成講座(子ども未来塾など) 	<p>教養教育機能を併せて担当</p> <p>芸術の創作活動を通じた交流を促進する共同施設</p>
	地域活性化支援機能	<ul style="list-style-type: none"> ・集客施設（ホール、図書館等） ・関連サービス施設（飲食、物販、各種サービス施設等） 	
	事業の成立性を高める誘致機能	<ul style="list-style-type: none"> ・国際機関等の施設（オフィス、研修センターなど） ・立地条件を活かした教育関係施設（専門学校等） ・産学官等の連携により起業化を支援するリエゾンオフィス（インキュベーション施設等） ・一般企業等の賃貸オフィス 	<p>UNITAR、JICA等のオフィス、ライシャワー大学ブランチなどを想定</p> <p>各大学の専門研究者等の研究シーズの活用等による地域活性化支援</p>

国際人材育成拠点(仮称)の施設イメージ

【施設のイメージ(旧森戸道路沿い)】

敷地面積：約 6,000 m²
 延床面積：約 12,000 m²程度
 (容積率 200%程度)
 階数：地上 10 階程度(高層部分)

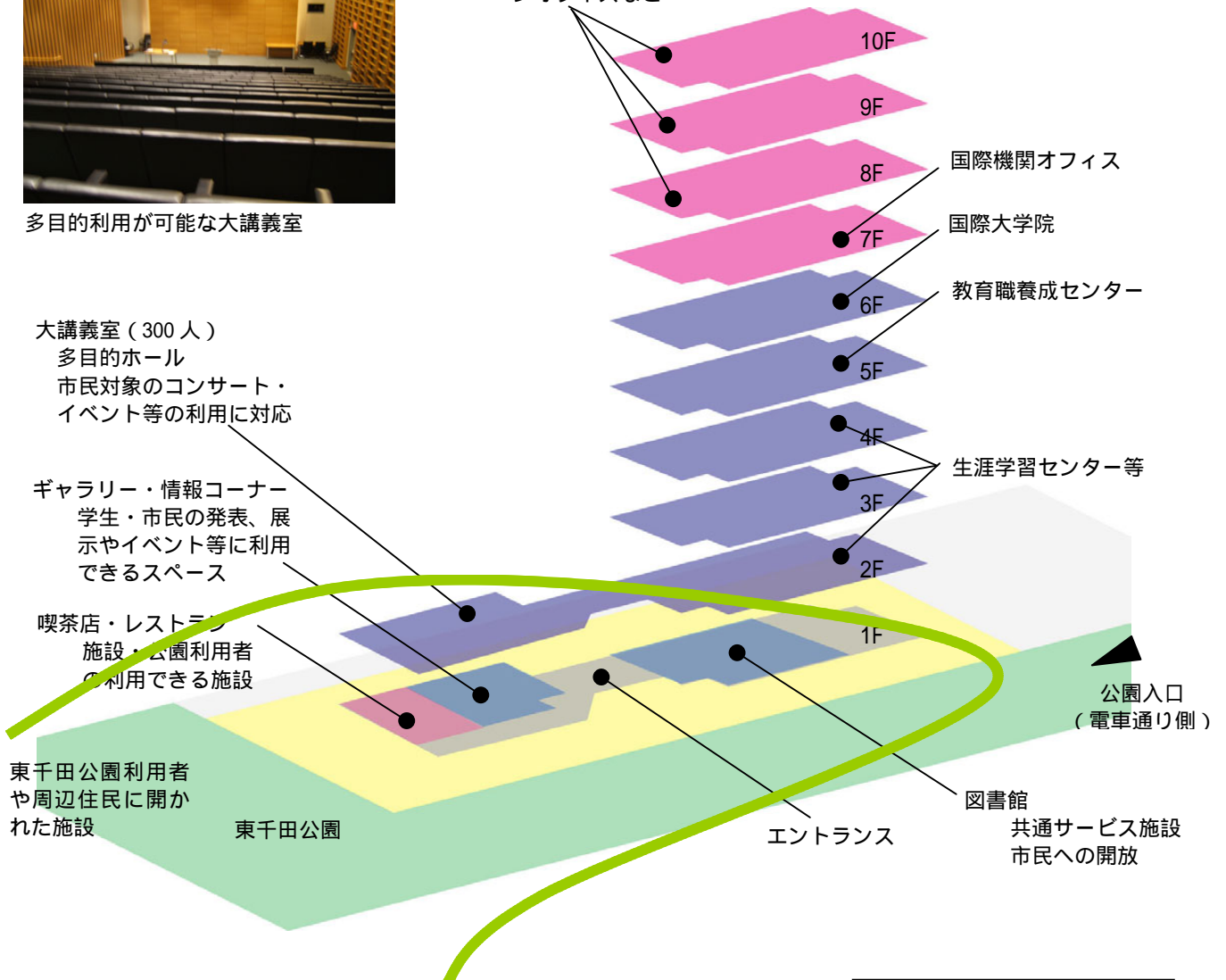


ビジネススクール仕様の教室



多目的利用が可能な大講義室

一般オフィス
 教育関係機関
 インキュベシ
 ョンオフィスなど



公園と一体的なオープンカフェ



多目的に使えるギャラリー

凡例	
	教育関係施設
	市民開放施設
	貸オフィス・店舗関係
	共通サービス部分

3. プロジェクトの具体化に向けて

本プロジェクトは、新しい「知の拠点」の再生による広島地域の活性化、東千田地区や広島市都心地区の活性化など、本来公的に推進すべき広島大学本部跡地の活用計画を、民間の資金やノウハウを活用して推進しようとするものです。従って、単なる民間事業としては実現が困難であり、官・民・学共同プロジェクトとして位置付け、様々な立場からの知恵を集めて実現を図っていく必要があると考えます。

とりわけ、「知の拠点」にふさわしいプロジェクトの推進のため、以下に示すような点において、広島市が先導的な役割を果たしていただくことを強く期待いたします。

六大学長懇談会としても、関係各機関等との連携をとりつつ、課題の解決に向けて尽力していきたいと考えています。

官・民・学共同プロジェクトとしての位置付けと事業推進主体としての役割の明確化

多くの企業や市民の知恵・資金を結集していくためには、多くの主体がビジョンを共有化していくことが不可欠であると考えます。そのため、官・民・学が共同で取り組む公的プロジェクトとしての位置付けを明確にしていただくことを希望します。

広島大学本部跡地の一体的な活用に関する計画コントロール

広島大学本部跡地の一体的な活用が図られるよう、都市計画・建築規制などによる計画的なコントロールを行うとともに、プロジェクトの円滑な進行のための事業推進組織を設置していただくよう希望します。

公的プロジェクトという観点から事業性を高めるための支援

民間事業者による事業コンソーシアムの事業成立性を高めるため、土地取得方法等について最適な手法を検討していただくことを希望します。

知の拠点にふさわしい公的施設や公的空間の整備等の支援

民間主体の事業を促進し、「知の拠点」にふさわしい機能や空間を確保するために、必要とされる公共施設等の一体的な整備に取り組んでいただくよう希望します。